

伝統文化の保育教材への適用

—歌舞伎における試み—

辻野 孝代
守谷 久代

I はじめに

保育教材は多岐に渡る。幼児期は、遊びの中に学びがあり、その保育教材は、従来広く「遊び」という視点から取り入れられ、幼児の発達に必要な環境を構成するというものである。幼児期の特性として急速に運動機能も発達し、家庭という空間から集団生活の中に入り、幼児の生活の場もより広がっていく。幼児における興味関心は、その行動範囲の広がりと同様、加速的に広がっていき、その受け止め方が非常に柔軟であり、知識の吸収力も目を見張るものがある。その柔軟性が高い時期に、従来の枠を越えた保育教材として、日本の伝統文化を代表するものである歌舞伎⁴⁾を取り入れた。伝統文化に触れる時期というのは、その内容が理解できると判断される年代になって初めて経験することが多い。歌舞伎に出会うのも、学校教育の一環として行われる「歌舞伎鑑賞会」などが主である。

伝統文化とは、その多種多様な事柄の中に、人間の感性に訴えかける魅力という要素を持っているため、取捨選択され、生き残ってきた文化だといえる。それが、数百年に渡り、受け継がれてきた所以であろう。その根源的ともいえる要素は年代を問わず、心に響くものであり、感性をより豊かなものに育てることが出来るのではない。

学習指導要領¹⁾においても、平成20年3月、小学校学習指導要領の改訂の中で教育の目標に、新たに「伝統と文化の尊重、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与」²⁾を追加しており、教育内容の主な改善事項として「伝統や文化に関する教育の充実」が挙げられ、「我が国の文化や伝統を受け止め、それを継承・発展させるための教育を充実」を掲げている。

伝統文化の中でも、歌舞伎は2、3歳で初舞台を踏み、年齢なりに立派に演じることができ、また、能や舞踊

などよりもその台詞や体の動きなどが大きく表現される。そういって点からも、幼児期に取り入れる伝統文化の保育教材としては、園児たちに受け入れられやすいものと考えられる。

歌舞伎において、所作と呼ばれる、その身体的表現は、台詞の意味が理解できない幼児期においても、簡単に吸収でき感じ取れるものである。運動機能の発達に伴い、興味関心も急速に深まる幼児期に、人間に感性に響く歌舞伎の表現を体感させるのは、将来、日本の伝統文化を引き継いでいく原動力にもなるという点でも有効であると考えられる。

従来の保育教材の枠を越えて、柔軟な視点で保育教材を求めるのは、幼児がおかれている環境を広く見つめなおし、より多様に保育教材を求める視点を示唆したものである。

II 実践の方法

京都光華女子大学短期大学部 こども保育学科の授業であった「保育内容：身体表現」の一環として、学生に対して歌舞伎を理解するための講演を前期に行い、次に、保育園児ークラスを招き、公開保育という形で保育実践を後期に行った。それに対し、学生に感想文の形式で意見を集めることにより、保育教材としての歌舞伎における有効性を探った。

1. 講演

講演内容は毎回少しずつ異なっていたが、概ね次に挙げる内容であった。

- 伝統文化である歌舞伎の歴史について
- 現代劇と歌舞伎との相違点（化粧・衣装・照明による演出・台詞・所作・小道具等について）
- 歌舞伎の魅力について

- 歌舞伎の楽しみ方について（京都南座見学、楽屋見学を含む）

学生は歌舞伎との接触はほとんど無く、多くの学生は歌舞伎への興味は薄かったため、担当教員から歌舞伎俳優への質問形式で講演は進められ、歌舞伎の専門用語を担当教員が現代用語に置き換え、説明する中で、学生の理解が徐々に深まっていった。

昔の照明は今とは違い、非常に暗かったため、芝居小屋の遠い座席からも役柄や年齢設定、悪役の有無等がよく理解できるように、化粧はくっきり浮かび上がる白塗りがベースであり、衣装は通常のサイズの1.5倍ほどもあったり、もっと大きな衣装もあったりするなど、学生の想像の域を超える話に興味深々で聞き入っていた。台詞や所作については、学生が日頃通うマクドナルドの店員の応対を、歌舞伎の言い回しに置き換えるなどして、より身近な場面での歌舞伎再現といった例により、直ぐにイメージすることができ、理解しやすく、内容を追うごとに、学生の「歌舞伎に対する興味・関心」は増していった。

南座見学、楽屋見学なども講演の一環として取り入れ、実際の劇場での臨場感や楽屋での歌舞伎俳優の様子、直接話したり、質問したりして、単に舞台だけの歌舞伎でなく、歌舞伎を親しみのある身近なものとして受け止められるようになっていった。

歌舞伎を保育教材として捉える視点については、どのような内容の保育になるか、疑問を抱く学生もあり、その疑問を解くべく、次の段階で公開保育という形式で、学生たちに実際の保育を見せる設定の段階に移行する。

2. 公開保育

本稿の著者の一人である守谷が保育園児に対して保育を実践し、学生はそれを公開保育という形式で見学した。

(1) 概要

保育実践である公開保育の概要は、つぎのとおりである。

対象 つわぶき保育園 5歳児、保育園担任（同行）

テーマ 「歌舞伎に触れよう」
 保育時間 90分
 実践期間 2008～2015年
 ねらい ・歌舞伎の所作を体験して、自らも表現する楽しさを感じ取る
 ・日本の伝統文化の中で長年培われ、伝えられてきた魅力に触れる

(2) 保育の内容

保育実践の流れは表1に示す通りである。

表1 歌舞伎保育案

| 幼児の活動 | 保育者の働きかけ |
|--|---|
| <p>《導入》本物に触れよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会で自分が演じたことを思い起こす。 ・昔の時代を背景とした絵本の挿絵から髪型や衣服など、江戸時代の風俗に注目する。 <p>（歌舞伎俳優：市川猿三郎さんがゲストティーチャーとして登場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎についてお話を聞く （現代劇と歌舞伎の違い…せりふ、動作、お化粧などについて） ・せりふや、所作（動作）をみる。 <p>《展開》変身してみよう・歌舞伎俳優に挑戦してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に歌舞伎独特のお化粧をしているところを見る。 ・歌舞伎の様々なせりふを聞いたり、所作を見たりする。 ・猿三郎さんのお話の中で覚えたせりふを実際に言ってみたり、歌舞伎の所作（動作）を演じてみたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会という場面での演じると体験を思い起こし、劇のイメージから、歌舞伎に繋げていく。 ・幼児にとって身近で親しみやすい絵本の挿絵に出てくる、江戸時代の風俗に注目させる。「桃太郎」「おむすびころりん」等々 ・保育者とゲストティーチャーとのやりとりで歌舞伎についてお話を聞く ・静かにお話を聴くように促す。 ・せりふの言い回しや、所作の動きに注目させる。 ・大きな声で、力いっぱいせりふが言えるように言葉がけをする。 ・力強い動きが出来るように励ます。 ・現在のお化粧との違いについて気づかせる。（保育者や保護者など、身近な人のお化粧と比べる） ・言葉の速度や強弱など、深く聞き取るようにさせる。 ・身体全体で大きく演じるように促し、楽しさを味わわせる。 |

| | |
|--|---|
| <p>《まとめ》歌舞伎のことを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎俳優さんと一緒にやったことを思い起こし、自分の体験を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・お話を思い出したり、演じてみたりしながら、体験したことを思い起こし、歌舞伎の楽しさを実感したことを心にとどめさせる。 |
|--|---|

(3) 保育の実際の展開

《導入》本物に触れよう

保育者は園児に対し、生活発表会の話をする中で、毎年行われる生活発表会において園児自身が演じたことを思い起こし、自分たちが演じた役柄や台詞について発言を求めると、園児の体験を劇としての歌舞伎のイメージにつなげるようにした。また、園児にとって読みなれている絵本で、歌舞伎の時代背景における風俗に関し、園児たちの意識を古い時代の劇との認識に繋げていった。

園児たちは、現在、身の回りには見当たることのない風俗や髪形、聞きなれない台詞の言い回しにも興味を示し、ゲストティーチャーである歌舞伎俳優との出会いに気持ちを高調させていった。歌舞伎俳優が、お稽古着である浴衣すがたで登場した際は、未知なる世界である歌舞伎の世界に期待が膨らんでいた。

歌舞伎の話については、保育者がゲストティーチャーの歌舞伎俳優に質問するという形式で行った。説明のあと、実際にせりふを聞いたり、所作を見たりと、園児たちに分かりやすい流れで進めていった。歌舞伎俳優の説明は難しい用語も出てくることがあり、保育者は園児たちに理解しやすい言葉に置き換えて伝えたり、歌舞伎俳優が演じる所作の中から、園児たちの興味関心を引き出し、演じやすいものを選び出して伝えたりして、園児たちの理解を深めた。そのため、園児たちは話の内容を掴み取り、歌舞伎俳優の演技や台詞の声の大きさなどに驚きの声をあげながら、熱心に話に聞き入る姿が見られた。

《展開》変身してみよう・歌舞伎俳優に挑戦してみよう

歌舞伎独特のお化粧について、園児たちのお化粧の過程をしているところを見せるために、モデルを登場させた。

モデルの顔が白塗りになる時点で、戸惑いを見せた園児もいたが、保育者と歌舞伎俳優とのやりとりでの

説明を聞きながら、変化していくモデルの顔の変貌振りに引き込まれて興味深く見入る中で、自分の思いを言葉にし、感想を述べたりする園児もいた。

歌舞伎の様々な台詞や所作については、園児の前で実際に演じた。また、歌舞伎では通常の笑う所作は体全体を使って大きく表現するが、この笑う所作を園児全員で真似て演じた。繰り返し行うことで、「笑う」所作を覚えた園児たちは、面白さを感じ取り、思い思いの表情で、体を大きく動かしたり、笑い声の強弱をつけたりして、より一層大きく主体的な表現活動へと変わっていった。

また、「やっことっちゃ、うんとこなあ」という歌舞伎独特の掛け声と、歩む動きとの連動も積極的に取り組み、大きな表現ともあいまって、生活発表会で演じた時さながらに、演じることに楽しさと充実感を感じていたのが、園児たちの表情からも読み取れた。

《まとめ》歌舞伎のことを知ろう

保育者は園児たちに、今回演じたことを振り返らせることにより、歌舞伎を演じた楽しさや充実感が心に残るよう、園児が発言する時間をとった。園児たちは口々に、覚えた台詞を話し、座ったままでも楽しそうに体を動かした。

最後には「明日もやろう」と意欲的な発言が多くみられ、園児たちの次への期待が感じられた。

Ⅲ 感想文の分析結果による問題提起

1. 感想文について

分析に使用した感想文の年度と回答者である学生の人数を表2に示す。結果の利用について同意を得た上で感想文を回収し、回答者が特定されないように集計した。

表2 分析に使用した感想文の実施年度と回答者数

| 実施年度 | 講演 | 公開保育 |
|--------|-----|------|
| 2008年度 | 59人 | 55人 |
| 2010年度 | 41人 | |
| 2012年度 | | 70人 |
| 2014年度 | 58人 | |

2. 分析方法

自由記述の感想文はその長さに差があり、また同じ

意見を数回書く場合もある。このため、単純に言葉の頻度を求めると、学生の実態から大きくかけ離れてしまう。また、実施内容も毎回少しずつ異なるため、単純な言葉を頻度分析では、実態を解明することが困難である。このため、自由記述式感想文から、まずキーワードを抽出してその出現頻度を求め、次に同様の意味ごとに集約した。そして、言葉の出現頻度ではなく、その言葉を記述した人数を分析に用いた。

3. 講演の感想から分かること

講演会については、否定的な感想を書いた学生がいたが、表3のように少数であった。このため、学生にとって概ね好評であったことがわかる。

表3 講演会についての記述

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2010年度 | | 2014年度 | |
|-------------------|-----|-------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 肯定的な記述のみを書いた | 145 | 91.2% | 45 | 76.3% | 41 | 100.0% | 59 | 100.0% |
| 否定的な記述を書いた | 14 | 8.8% | 14 | 23.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 衣装を見たかった | 3 | 3.0% | 3 | 5.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 説明が早かった | 1 | 1.0% | 1 | 1.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 言葉が難しかった | 9 | 9.0% | 9 | 15.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 歌舞伎と能と狂言の違いが分からない | 1 | 1.0% | 1 | 1.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

表4 歌舞伎についての好意的な記述した人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2010年度 | | 2014年度 | |
|--------------|-----|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 歌舞伎の印象が良くなった | 119 | 74.8% | 46 | 78.0% | 34 | 82.9% | 39 | 66.1% |
| 歌舞伎を見たいと思った | 48 | 30.2% | 11 | 18.6% | 15 | 36.6% | 22 | 37.3% |

表5 歌舞伎の表現について興味・関心を持った人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2010年度 | | 2014年度 | |
|--------------|----|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 歌舞伎の表現に関する記述 | 24 | 15.1% | 11 | 18.6% | 3 | 7.3% | 10 | 16.9% |
| 化粧・隈どりに関する記述 | 59 | 37.1% | 14 | 23.7% | 19 | 46.3% | 26 | 44.1% |
| 女形に関する記述 | 32 | 20.1% | 13 | 22.0% | 4 | 9.8% | 15 | 25.4% |

表6 公開保育全体の記述

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2012年度 | |
|-----------------|-----|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 肯定的な記述のみを書いた | 120 | 96.0% | 54 | 98.6% | 66 | 92.7% |
| 否定的な記述を書いた | 5 | 4.0% | 1 | 1.4% | 4 | 7.3% |
| 演者の言葉が難しいときがあった | 4 | 3.2% | 0 | 0.0% | 4 | 7.3% |
| 長く退屈な90分だった | 1 | 0.8% | 1 | 1.4% | 0 | 0.0% |

表4から、多くの学生にとって歌舞伎に対する印象が良くなったことがわかる。

また表5から、ある程度の学生が、歌舞伎の表現を見て参考になった、面白かったなど好意的な感想を書いている。

以上のことから講演会では、目的とする「学生に歌舞伎について興味・関心を持たせる」が概ね達成できていると考えられる。

4. 公開保育の感想からわかること

公開保育については、ほとんどの学生は肯定的な感想を書いているが、ネガティブな感想を書いた学生がいた。しかし、表6のように少数であるため、学生にとって概ね好評であったことがわかる。

記述内容を対象別に集計すると、表7のようになった。

表8から、園児の様子を見た学生の感想によって間接的ではあるが、園児が楽しそうに積極的に参加したことがわかる。

また、表9、表10から、学生達が単に保育を見学しているのではなく、約半数の学生が将来の自分のこととして、学びとろうとしていたことがわかる。

表10より、表9より学生数が少なくなるが、保育

園の先生の声かけや援助に気付き、将来の自分が実施する保育にとって参考になったの記述した学生がいたことがわかる。

表11から、公開保育の実施前では、歌舞伎を保育に取り入れることに対して難しいと思っていた学生が、公開保育を見た後にそうではないことが分かった学生が、少数ながらいたことがわかる。また、様々な歌舞伎における表現が参考になったと述べた学生の割合は、2、3割程度であった。

表7 対象別の感想を記述した人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2012年度 | |
|------------------|-----|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 保育園児についての記述 | 111 | 88.8% | 44 | 62.9% | 67 | 95.7% |
| 話者（守谷）・演者についての記述 | 72 | 57.6% | 38 | 69.1% | 34 | 48.6% |
| 歌舞伎についての記述 | 49 | 39.2% | 27 | 49.1% | 22 | 31.4% |
| 保育園の先生についての記述 | 31 | 24.8% | 0 | 0.0% | 31 | 44.3% |

表8 保育園児についての記述内容とその人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2012年度 | |
|----------------------|----|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 最初は緊張していたが、次第に慣れていった | 6 | 4.8% | 1 | 1.8% | 5 | 7.1% |
| 楽しそうだった | 72 | 57.6% | 29 | 52.7% | 43 | 61.4% |
| 反応が良かった | 41 | 32.8% | 5 | 9.1% | 36 | 51.4% |
| 積極的に参加していた | 44 | 35.2% | 9 | 16.4% | 35 | 50.0% |

表9 話者（守谷）・歌舞伎俳優についての記述とその人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2012年度 | |
|-------------------|----|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 説明や進め方が参考になった | 69 | 55.2% | 35 | 63.6% | 34 | 48.6% |
| 歌舞伎俳優の言葉が難しい時があった | 4 | 3.2% | 4 | 7.3% | 0 | 0.0% |

表10 保育園の先生についての記述とその人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2012年度 | |
|--------------------|----|-------|--------|------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 臨機応変な援助・声かけが参考になった | 30 | 24.0% | 0 | 0.0% | 30 | 42.9% |
| チームワークが良かった | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 1.4% |

表11 歌舞伎についての記述とその人数

| 記述内容 | 全体 | | 2008年度 | | 2012年度 | |
|----------------------------------|----|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 歌舞伎に対する印象が良くなった | 10 | 0.8% | 10 | 18.2% | 0 | 0.0% |
| 歌舞伎で保育ができることに懐疑的であったが、できることが分かった | 15 | 12.0% | 14 | 25.5% | 1 | 1.4% |
| 歌舞伎の表現が参考になった | 31 | 24.8% | 9 | 16.4% | 22 | 31.4% |

Ⅳ 考察

分析結果によると、やはり、当初、歌舞伎というものは、今の学生にとっては、興味のわからない、昔に流行ったらしい古い演劇というイメージが根強い。学生自身にとっても、理解に苦しむような台詞に動作、あまり聞いたことの無いような楽器や小道具による演出など、直ぐには受け入れにくい感覚があり、それを保育教材として園児に保育するというのは、全く未知の保育現場であったと言える。

その中で、講演を聞き、歌舞伎の様々な要素に触れることにより「歌舞伎の印象が良くなった」が74.8%になるなど、歌舞伎に対するイメージが大きく変容したことが伺われる。それは、「難しいものだと思っていた」という明らかにネガティブで距離のある言葉から、「堅苦しい印象が無くなった」となり、さらに「魅力があることが分かった」「身近に感じるようになった」や「好きになった」など、初めに持っていた印象とは、全く逆の好印象としての歌舞伎を受け入れられるようになっていたことを表わしており、学生が伝統文化の中の楽しさを見出すことが出来たと言えるだろう。

また、次の段階の公開保育では、「歌舞伎で保育ができることに懐疑的であったが、できることが分かった」など、保育教材になり得ることに気付く記述があり、特に学生の目が園児の様子をしっかりと捉えていたことがわかる「楽しそうだった」「反応が良かった」「積極的に参加していた」という記述も見られた。学生に講演だけでなく、公開保育として、歌舞伎を教材とした保育実践を見せたのは、新たな保育教材への視点を生むということで有意義だったと考えられる。

単発的な公開保育で、非常に積極的な取り組みが出来たことは、保育教材としての歌舞伎が園児たちの感性に訴えるものが大きかったと言えるだろう。仮に継続的に歌舞伎を保育教材として取り入れたならば、園児たちはたくさんの歌舞伎所作を覚え、生活発表会の演目になる可能性も考えられる。しかしながら、歌舞伎そのものをただ単純に取り入れるのは、保育教材として、逆の効果を生むことにもなりかねない。単に「歌舞伎の演目を鑑賞する」といったものでは台詞の内容や動きの意味もわからず、理解するにはほど遠いものの連続だからである。

保育教材として成り立つ大事な点は、一連の実践の中で、歌舞伎俳優の専門用語や詳しい説明を、保育実践での保育者でもある担当教員が対象者に合わせて、歌舞伎の諸々の中から教材になるものを選びだし、噛み砕いて教材として成り立たせた点である。学生に対しても、園児たちに対しても、ただ単純に歌舞伎俳優が話し、演じるだけでは、その接点を見出すのは難しく、結局「歌舞伎はなんだか理解できなくて難しいものだった」との印象しか残らないであろう。そして、「伝統文化って、つまらない」という結論に至ってしまう恐れもある。それゆえ、指導者は歌舞伎俳優の視点ではなく、保育者の視点に立ち、伝統文化の中から発達段階に応じた、理解できる保育教材を選び出し、構築することが強く求められるのである。

一見すると分かりづらくとっつきにくい伝統文化でも、その中には幼児でも楽しめる要素が存在する。それを保育者の視点で探り出し、園児たちの日々の保生活の中で豊かな保育教材を提示することで、幼稚園教育要領にあるように「興味や関心の幅を広げ、言葉を獲得し、表現する喜びを味わう」ことができるであろう。

そのために、保育者は幼児の置かれている環境全体を見渡すことにより、広く保育教材を求めることが有効であると考えられる。学習指導要領¹⁾に示されたように、伝統や文化に関する教育の充実が求められるのであれば、柔軟で吸収力がある幼児期に伝統文化の要素を持った保育教材も必要かつ有効なものといえるのではないだろうか。各地の園で取り上げられるようになった「歌舞伎たいそういざやカブかん！」⁵⁾なども伝統文化を取り入れようとする流れの中にあると考えられる。実際に、園児による実演の動画がYouTubeなどの動画投稿サイトに投稿されている。

枠を超えた保育教材の有効性は、保育者の視点によって成り立ち、幼児たちに広い世界を見せることが出来るであろう。

Ⅴ まとめ

「幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身につけていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に

自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期であることが知られている。」と幼稚園教育要領解説³⁾にあり、子どもの生活・発達段階の視点で構築されることが保育教材の視点であった。しかし、幼児自身の生活から離れるのではなく、その後の生活につながっていくというアプローチの仕方では保育教材を考えたとき、実に様々なことが教材として視野に入ってくる。知識や技能を一方的に教えられ身につけていくというのではなく、知識や技能の根源にある楽しさというものを見出したとき、それは保育教材の域に入ってくる。

学生にとって、保育教材の視点を広げ、従来の枠に捕われることなく、広い視野から保育教材を求める柔軟性を培うことが重要であると考え。このため、公開保育の次の段階として、保育案の作成や模擬保育の実施などについて、他の授業での展開について検討する必要がある。

また将来の展開としては、狂言、能、邦楽などの他の伝統文化について、より実践的な保育教材の検討・開発も将来の課題である。この際には、身体表現の視点だけでなく造形表現や音楽表現を含む保育の5領域全体の視点からも活用を検討することが必要である。

VI 参考文献

- 1) 文部科学省 (2009)、小学校学習指導要領第4版 <平成20年3月告示>、東京書籍
- 2) 文部科学省 (2008) 教育基本法の改正に対応した学習指導要領の主な改訂点、
http://www.mext.go.jp/a_meno/shotoo/new_cs/news/080216/008.pdf (2016年10月28日閲覧)
- 3) 文部科学省 (2008)、幼稚園教育要領解説、フレール館
- 4) 市川染五郎 (監修) (2006)、歌舞伎一市川染五郎私がお案内します (こども伝統芸能シリーズ)、アリス館
- 5) 市川染五郎 (出演) (2006)、NHK からだであそぼ 決定版 歌舞伎たいそう いざやカブかん! [DVD]、ポニーキャニオン
- 6) 市川染五郎 (出演) (2008)、からだであそぼ 歌舞伎なりきりわざくらべ 市川染五郎 [DVD]、ポニーキャニオン

- 7) 吉村啓子、守谷久代 (2005)、<ノート> 保育実践から見る保育内容5領域の不可分性について、兵庫大学短期大学部研究集録 39, 55-59

